



全国の生産者や薬局と連携、利用者に最適な 組み合わせのサプリを個包装でお届け

株デザインサプリ

世の中にはさまざまなサプリメントが出回っている。どれが自分の体に本当に適しているのかわかりづらい、サプリ同士や薬剤との飲み合わせもあるという。静岡県富士市の物流会社の(株)ミス・バラエティーでは、全国の薬局や生産者と連携して利用者に最適なサプリを提案。一日分を組み合わせた個包装にして一カ月分を届けるモデルを事業化した。(株)デザインサプリ(東京都品川区、西根英一会長)を設立し、二〇一七年三月からサービスを開始している。

静岡県富士市に本社を置き、物流サービスを主業務とする(株)ミス・バラエティーでは七年前から、大手健康食品メーカーの製品の包装、梱包、配送を請け負い、クリーンルーム等の設備も整備した。栗田佳幸氏はミス・バラエティー社長と、新事業として昨年設立した(株)デザインサプリの取締役を兼任している。栗田氏は、三年ほど前に、ある薬剤師からこんな話を聞く。「(その薬剤師の)弟さんが医師の処方箋を彼の経営する薬局

これ聞いた栗田氏は、調剤薬局が、健康相談にのったり、個人に合わせた適切なサプリメントも提供できる「健康サポート薬局」に変わることができたらイノベーションが起これる。考え、デザインサプリのビジネスモデルの原型を考案した。ただし、その事業化までの道のりは決して平坦ではなかった。

三人のパートナーが力を結集して事業化へ

静岡県では、県東部地域の産官学が協働して医療健康産業クラスター形成を目指す「ファーマバレープロジェクト」を、二〇一一年から推進している。ミス・バラエティーのデザインサプリ事業はこの構想にも合致しており、栗田氏は県の支援も得ながら、事業化を進めた。

企業データ

(株)デザインサプリ

所在地	東京都品川区東大井5-11-3 三津広ビル3F
☎	03-6712-3285、☎03-6712-3287
https://	design-sapuri.co.jp/
事業内容	健康食品販売
創立	2017年3月
資本金	7200万円
年商	非公開
社員数	8名

「一六年秋に東京ビッグサイトで開催されたヘルスケア関連の展示会にデザインサプリの事業モデルで出展しました。ミス・バラエティーでは、すでに健康食品の物流は手掛けていたものの、薬局やサプリなどヘルスケア業界全般の知見が不足しており、物流だけではダメだと思いが知らされました。この未完成な事業モデルは練り直す必要があるとブースを途中で閉めたの

です」(栗田氏)

だが、何が幸いするかわからない。その展示会場で、現在、(株)デザインサプリの会長を務める西根英一氏がヘルスケアビジネスについて講演をしていたのだ。それを聞いた栗田氏は西根氏に相談を持ちかけた。

西根会長は大塚グループ、電通グループ、マッキンゼー・ワールドグループで働いた経験を持つマーケティングの専門家で、地域や自治体に対してヘルスケアビジネスのアドバイスなどを行っている。現在は(株)ヘルスケア・ビジネスナレッジの代表も務め、事業構想大学院大学や千葉商科大学で教鞭も執っている。「ヘルスケアビジネスの事業化でネックになるのが、実は物



「あなたのための一日分を一包」がキャッチフレーズ

流なのです。栗田さんの会社はその基盤をすでに持っていた。そして、栗田さんの思いの強さもわかり、足りないのは事業戦略の部分と、事業のブラッシュアップを引き受けました」と西根会長は語る。

ミス・バラエティーで三カ月ほどコンサルティングを行う中で、一事業部門ではなく、別会社として立ち上げようということになった。こうして、元ポータル化粧品品の販売会社社長で、通販にも詳しい下黒沢隆氏も役員に加え、一七年三月に(株)デザインサプリが設立された。

サプリによって地域の生産者も元気になる

現在、デザインサプリが扱っているサプリメントは三十五種類。カニ由来のキトサン、沖縄産の柑橘類・シークワーサーに含まれるノビレチン、シソから抽出したフラボノイド、ホヤ由来のプラズマローゲンなど、機能が証明されているサプリだけをそろえている。

すでに発売されているメーカー品もあるが、デザインサプリ



栗田氏(左)と西根会長(右)

が各地の生産者や自治体、地域の企業と協力して新たに開発したサプリメントもある。

「当社は日本各地にある天然素材から健康・美容成分を抽出し、日本品質の製造管理の下に委託工場でサプリを作っています。私たちは『共創互恵』と呼んでいます。生産者と健康課題を持つ生活者をサプリでつないでいるのです」(西根会長)

例えば、沖縄北部ではクワンソウ(アキノワスレグサ)という植物が栽培されている。花や蕾を食材とするほか、葉を乾燥させて寝付きをよくするお茶として飲まれ、「眠り草」などという名で地産品となっている。このクワンソウから抽出したヒプノカリスという成分には穏や

かに眠りを誘い、睡眠の質を改善する働きがあるとされる。同社はその作用に着目し、錠剤のオリジナルサプリを作った。栗田氏も「サプリによって地域の生産者も元気になってほしい」と言う。

「ヘルスチェック」でサプリを推奨

現在、同社は二つのルートでサプリを販売している。一つは同社が「健康サポート薬局」と呼ぶまちの調剤薬局を通じて販売するルート。もう一つは自社のウェブサイトを通じて直接ユーザーに届ける通販ルートだ。

薬局ルートは二〇一七年の秋からスタートした。現在、愛知県豊橋市に本社を置く(株)ヤマザキ・ファーマシーズをはじめ、東京や東海・関西圏の薬局がデザインサプリの商品を扱っている。オンラインは一八年二月から発売を開始した。

薬局店頭でもオンラインでもユーザーが購入する際には、同社が独自に開発した「ヘルスチェック」というシステムを使って最適なサプリを推奨する。

日本を支える主役・中小企業を応援する

商工ジャーナル

S H O K O J O U R N A L

2018

7

JULY

特集：農業を強くする新しい取り組み

新連載：トップのための経営講座「変革の時代に実効性のある中期経営計画を策定する」

未来技術の旗手たち：コオロギが世界の食料危機を救う



キラリと光る地域発企業

ヘルステックは、「生活習慣」「健康課題」「体質」の三軸によって分析を行う。生活習慣は、食生活状況や運動の頻度など。健康課題は花粉症や腰痛の有無など二十五種類の課題を設定している。体質は実際に疾病があるかどうかなど健康状態を示す。薬剤師の協力を得て開発し、特許も出願している。デザインサプリのビジネスモデルの核となるシステムだ。

まちの薬局が健康サポート薬局に脱皮

サービスが始まって一年ほど経った。オンラインの会員数はまだまだだが、まずは調剤薬局のルートを着実に太くしていきたいと栗田氏は考えている。「全国五万八千店の薬局の一角に当たる五千八百店が、一日一セット販売してくれると年間二百億円ほどの事業規模になります。まずはそこを目標に進めていきたい。多くの薬局が地域住民のヘルスケアにより密接に関わるようになれば、高齢社会の予防医療が大きく前進します。今後、健康サポートの役割と責任はますます大きくなっていきます。志は大きく、事業は緻密に進めるつもりです」

「二〇一八年度の診療報酬改定により、薬局の基準調剤加算が廃止される一方、地域支援体制加算が新設された。また、薬剤服用歴管理指導料が引き上げられた。これまでのように調剤しているだけでは不十分で、薬剤師は投薬後も顧客とコミュニケーションを取りながら、その状態をフォローし、処方適正化につなげることが期待されている。薬局経営の観点でも健康サポート役として経営や接客のあり方を問われているわけだ。「薬局にとってデザインサプリアはお客様とのコミュニケーションのきっかけになります。お客様としても何かあれば健康サポート薬局に相談に行く。実際、デザインサプリアに取り組みすることで、一般患者の処方箋も増えることがわかっていきます」と西根会長は語る。

現在、複数の地域チェーン薬局と交渉を進めており、その旗艦店にデザインサプリアのシステムを導入し、健康サポート薬局とする方向で話し合っている。「今後、薬局は健康サポートのためのツールを導入する必要に迫られるでしょうが、いずれにしても在庫や管理が必要になります。デザインサプリアはその点、在庫管理が不要で、われわれに発注さえしてくれば、ミズ・バラエティーを通してお客様の自宅まで配送します。薬局側に初期投資は要りません」と、西根会長はそのメリットを語る。調剤薬局が今後、経営の変革を求められる中で、デザインサプリアとしても薬局を支援していきたいと栗田氏は語る。「若い薬局経営者ほど健康サポートへの志向が強く感じられます。それは、利益ということよりも社会に役立ちたいという思いが強いからでしょう。そうした経営者を支援するためにデザインサプリアはある。今年度は経営セミナーを開催したいと考えています。在宅医療や健康サポートに対応できないという薬局経営者もいますが、それは「変わり方」を知らないだけです。デザインサプリアは変わるきっかけになります。そのことをセミナーでわかっていただきたいと思えます」

栗田氏も西根会長も、薬剤師や薬局はもつと価値を持っているのに現状では十分発揮されていないと考えている。デザインサプリアは地域資源を活用するとともに、地域の医療・健康維持のインフラ強化にも貢献する。

ルポライター 吉村克己